NPO法人篠山ナマステ会通信

2018（H30）年
3月31日発行

No. 2
（通巻No.34）

特集

ネパール・スタディツアー報告
進む復興
新たな交流を模索！

地震で校舎が損壊したラダクリシュナ小中学校を訪問

2018年1月20日から27日までの8日間の日程で、スタディツアーを実施しました。本会創設時の会員、初めて参加の市民、理事と8名の参加でした。

「ネパール・ダスト」と現地では笑っていましたが、大型重機が山を削り、土砂を運ぶ大型トラックが巻き上げる粉塵は復興が急ピッチに進んでいることを物語っています。ネパールの伝統的な3階建ての土と木で作られた民家は姿を消し、コンクリートで土間打ちをされ、柱には鉄筋が入り、壁のレンガもコンクリートで固められて地震に強い標準住宅の建設が進んでいます。獣道のようだった小道は、資材を運ぶトラクターが入る幅の道に改修されていました。

今回は

①人づくり・村づくりの現状把握
②今後の支援のあり方協議
③新交流先パタン市の小中学校訪問
④震災からの復興状況視察

などの多くのテーマを持って臨みました。

障害者療養施設、学校給食支援、パタン市の小中高一貫校などを訪問しましたが、有意義な交流が期待されます

以下、参加者の声を掲載しつつ報告します。

大事な相互理解

私のネパールの印象は「ヒマラヤ山脈に添う緑豊かな国」でした。ところが、飛行機から降りた瞬間、いろんな事象が豪雨のごとく降りかかってきました。まず気になったすごく埃っぽい匂い、凸凹の激しい道路等々、インフラ整備が十分でなく開発途上国であること、山麓から山頂に生活圏が広がる山国であるという認識に至りました。山の訪問先ではヤギの飼育頭数が増加し、女性の社会進出、子供の就学に繋がっているとのことでした。女性グループも増加し、現金を得るための支援、地域の促すための支援に繋がることが大事だと心から感じました。今回の訪問のねらいは、おおむね期待に沿った結果が出ていたように思います。ただ、相手が他のスタッフと思い違いや、支援が先方の生活習慣、実態にあっていない点もあり、双方の意思疎通が大切だと感じました。今回のツアーに参加させていただいたことに感謝するとともに、今後も本会への支援を約束します。

（西村健太郎）

ナガルコットからのヒマラヤ連峰

真の支援とは

初めてネパールの地を訪れました。

強烈な印象として残ったのは、3日目にセティティビ小学校を訪問した帰り、長老宅を訪問した時です。そのお宅はかつて村の有力者で、息子さんも研修生として日本を訪れ、いずれはその経験を生かし、村の農業振興に尽力する予定でした。しかし、現在村を離れ、日本で暮らしているとのことでした。Uさんは長老宅の門先に座ってしみじみと「われわれの行ってきた支援は本当に村のため、この家のためになったのだろうか。」と一人言のようにつぶやかれました。

その日の夜、SSSの事務所に昼間お出会いしたあの長老が来られました。昼間と違って、彼なりに正装でこられたので、はじめ気づきませんでした。2時間ほどで、またあの真っ暗な山道を帰っていかれました。

我々の活動の成否は別にして、彼があの山道を我々のために歩いてやって来てくれた。これが、Uさんの一人言に対するネパールの人々の回答ではないでしょうか。Uさんの清廉・謙虚な精神を忘れず、岩村記念病院に掲げてあった「Life means sharing」ということばを肝に銘じてナマステ会の活動を継続しようと決意しました。

（西田　正志）

ガハテ村を歩く

「サンガイ ジウナ コラギ」

篠山ナマステ会ならではのスタディツアーに参加。会発足の基、セティデビ小学校と村人へ元気エールを！次いで、ラダ・クリシュナ小中学校訪問。震災被害は随所に。翌、シンドパルチョーク郡の小学校を視察、山肌を削り道無き道の通学路。はにかみ、好奇の瞳に迎えられ、ふと遠い日の忘れ物が此処に！

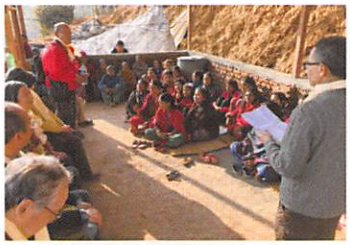
パタン市で私立小中一貫校を視察。山の学校との格差に驚く。障害者療養施設、ヤギ飼育女性グループ。さらに関心を寄せたい視察でした。

ツアー終盤、ナガルコット泊。朝日に輝くヒマラヤの雄姿を眺めた。

「生きるとは　分かち合うこと　弱きものと」1986年3月8日 岩村昇。

「たんば農文塾」で囲炉裏を囲み、PHD研修生ビスタ氏は後にSSSを、博士と共の半生をPHDに生きた渡辺省吾さんは篠山ナマステ会を設立された。サンガイ ジウナ コラギ（みんなで一緒に生きるために）

（山岸　永子）


女性グループと話し合い

ナマステの歴史とモットーを知る旅

お誘いいただき、私が参加して良いのかドキドキで出発した。ネパールは国土のほとんどが険しい山国だそうだ。エベレスト・ヒマラヤははるかかなたに見ることができた。目の前の山々は斜面には家がポツポツと遠くから見ると絵画風景でした。地震で家屋が崩壊し、復興はまだ進んでいない様子でした。石やタイヤの重石が置かれたトタン屋根の住宅が多く、道路は舗装がなく、自動車が道の土埃を巻き上げ、空気を汚し、植物も埃だらけ、いたる所にゴミが捨てられ、どうにかならないのかと思いました。あまりにも日本とかけ離れた生活に驚きだった。そんな所で女性が家計収入のため、山羊の飼育をしていた。山羊の耳は長くたれ可愛いが、草があまり生えていないので餌が大変。栄養価の高い木葉が特別に植えられ

グループで学ぶ４年生

ているのだとか。雇用の不足で家計収入を得るのに若者は海外へ、その時のために小学校から読む・書く・話すができるように英語教育が組まれていた。日本の英語教育もこれから変わっていくのでしょう。観光旅行とは異なるナマステの歴史とモットーを知る旅でした。この体験を日々の生活に活かしていきたい。少し不便を感じたが、とても良い旅だった。（小林　伊津）

学ぶことが多いスタディツアー

4回目のネパールであるが、今ひとつよくわからなかったネパールの行政区について、今回初めて具体的に知った。前コーデネーターだったビシュヌ・マニ・ネパールさんが第10区の首長に当選されたと聞いていたが、ネパール国の第3州『カトマンズを含む』カブレ郡マンダンジュプール市第10区の区長になったということになる。また、パタンという地名は実はラリットプールであることも初めて知った。行くたびに新しい発見がある。このツアーの良さだろう。地震の被害が大きかったシンドパルチョーク郡では、トタンで囲った家が建ち、建築資材を運ぶための道路が山の頂上まで続いている。飲料水のこと等復興に係る課題は多い。しかし、LMV校を訪問し、副校長のギタさんから「ネパール人として、国のために何かができる人間を育てる」ことを学校の目標にしているとお聞きし、日本の学校や子供達の現状を考えた時、同校から学ぶことがたくさんあると思った。（中西　節）

ネパール氏らと話し合う

ネパールの自立を目指す人材育成

今回のツアーでは、沢山な施設とそこに働く人達との出逢いがあった。その一つラリット・プール小中学校（L・M・V）の訪問で強い衝撃を受けた。朝礼では、生徒達は敬礼し真摯な態度でネパール国歌を斉唱、続いて学校の目標（憲章だろうと思われる）を声高らかに唱える。日本の学校では絶対お目にかかれるものではない。がこれが真っ当だと思う。

この学校の副校長のギタ先生は、自分の学校の教育方針を自信をもって熱く我々に訴えられた。図書室には司書さんが常駐し本の活用が図られていたが、いかんせん本が相当くたびれていた。このことは利用率が高いという証なのかもしれない。私はこの学校の図書の充実のためならば支援を惜しまない。近い将来この学校との交流が実現する時には、いち早く先方に伝えるつもりでいる。

また、ネパールの将来をしょって立つ人物がこの学校の卒業生であろう事は言うまでにないように思われる。（若狭　幹雄）

整列して朝礼

難しい現実

初めてネパールの山村を訪れた時、厳しい環境の中で家族が肩よせ合って暮らす生活に胸打たれて「ナマステ・ネパール」の詩を書いた。あれから20年、学校ができて教育を身に付けた若者がみんな村を出て行って、老人と女性だけが残された。そこへ地震が追い討ちをかけた。

年金も医療や介護施設も未整備の、山の中に取り残されたパッサンの祖父母や、ビショの父親と祖母の生活が、これからどうなるのか、老人だけで段々畑の農業が、いや生活自体が成り立つのか、オレンジの実る里を夢見て建てた「友情のオレンジ」の標柱だけが、むなしく朽ち果てていくのか。

日本の後を追いかけて急速に進む家庭崩壊に、じっと耐えているビショの父親テクさんの肩が、心なしか震えていた。崩れた家は再建できても、失われた家族の団欒は取り戻しようがない。（上田　和夫）

旧友のテクさんと

22円で一人一日の給食支援が！

今回の地震で最も大きな被害に遭ったシンドパルチョーク郡のナムナ・ジャナセワ校を訪問しました。本会の海外アドバイザーでもあるギリさんが中心に実施している給食支援を視察する為です。地震後、この地域では生活がやっとで、子供達は食べるものが少なく落ち着いて学習にも取り組めません。給食支援は栄養改善が目的ですが、子どもを委員に加えた給食委員会を組織して自治的運営を試みています。村の野菜や水牛のミルク、ヨーグルトを計画的に購入し栄養バランスのとれたメニューも工夫しています。また、4人の正規の教員の給料を持ち出し、給食を作るための職員を村人から雇用していました。学ぶところが多い復興支援のあり方です。（松本　清一）

給食支給をする参加者

2017年度　NPO法人篠山ナマステ会のあゆみ

月	日	
4	3	定例理事会
	30	**NPO法人篠山ナマステ会総会**
5	8	定例理事会
	25	事務局会議
6	5	定例理事会
	11	理事等学習会
	23	京都府退職公務員連盟福知山支部で講話
7	3	定例理事会
	9	**「国際理解フォーラム2017GLOBAL FIELD」参加**
	27	事務局会議
8	7	定例理事会
	31	篠山市教育委員会と調整会議
9	7	定例理事会
10	1	広報紙「NPO法人篠山ナマステ会通信」第１号配布
	2	定例理事会
11	6	定例理事会
	11	県教育研究集会国際連帯・多文化共生分科会で発表
	25	「世界で一番美しい村」映画鑑賞会参加
12	9	「第15回人権フェスタ in ささやま」参加
	10	スタディツアー事前説明会
	10	定例理事会
1	8	定例理事会
	20	**ネパール・スタディツアー実施（～27日）**
	28	**市民センターまつり参加**
2	5	定例理事会
	18	NPO大学「まなび塾」を受講
	21	「クラウドファンディングセミナー」を受講
	23	「新設NPO法人向研修会」参加
	24	「味間ふれあい館交流会」に参加
3	5	定例理事会
	28	臨時理事会
	31	広報紙「NPO法人篠山ナマステ会通信」第２号配布

新入会者紹介

（敬称略）

賛助会員

宮田正彦（篠山市）
西村健太郎（篠山市）
小林伊津（篠山市）

ツアーの詳細は報告会で

4月21日の総会の後、「ネパールの現状と支援のあり方」と題して、今回の報告会を実施します。

■会員を紹介してください

私たちは組織強化のため、賛助会員の拡大をしたいと考えています。賛助会員を紹介してください。

NPO法人
篠山ナマステ会

■事務局
〒669-2221
篠山市西古佐921

■振替口座
00930—6—29629